

第2回

乳幼児の父親についての
調査報告書

【国内調査・国際調査】



第2回 乳幼児の父親についての調査報告書

	本調査の特徴	4
	本調査の枠組み(国内調査・国際調査)	5
■調査全体をふりかえって		
日本のお父さんへ 「あなたはかわいそう！」が監修の言葉	白梅学園大学学長 汐見 稔幸	6
首都圏の父親調査を読んで	恵泉女学園大学大学院教授 大日向雅美	8
浮かび上がる東アジア4都市の乳幼児の父親像 ～「上海>北京」vs「ソウル>東京」の構図は、どこからくるのか～	国立教育政策研究所総括研究官 一見真理子	10
■いまどきの父親像	ベネッセ次世代育成研究所	12
Part 1 国内調査		17
2005年と2009年の経年比較を中心に		
	調査概要	18
	基本属性	19
第1章 子どもとの関係・父親のペアレンティング	高岡 純子	23
第1節 子どもと一緒に過ごす時間		24
第2節 家事・育児のかかわりと理想		26
第3節 父親のペアレンティング		30
第2章 家族とのかかわり ～妻、祖父母との関係を中心として～	福丸 由佳	43
第1節 出産への立ち会い		44
第2節 妻との関係		48
第3節 祖父母とのかかわり		60
第3章 父親のワークライフバランスの実態	後藤 憲子	67
第1節 父親の職場環境		68
第2節 育児休業制度の利用実態		72
第3節 利用しやすいと思う両立支援制度		76
第4節 地域の中での活動・生活満足度		80
■参考データ		
地方部の父親の家族とのかかわり・ワークライフバランス	持田 聖子	82

Part 2 国際調査 87

東アジア4都市比較(東京・ソウル・北京・上海)

	調査概要	88
	基本属性	89
第1章 子ども・家族とのかかわり	田村 徳子	93
第1節 子どもと一緒に過ごす時間		94
第2節 家事・育児の実態		96
第3節 妻とのかかわり		102
第4節 祖父母とのかかわり		108
第2章 父親の育児観・父親の役割	持田 聖子	115
第1節 父親の育児観		116
第2節 父親像の理想・父親としての将来の不安		122
第3章 父親のワークライフバランス	持田 聖子	127
第1節 ワークライフバランスの4都市比較		128

資料編 137

調査票見本【国内調査】	138
調査票見本【国際調査】	147
基礎集計表【国内調査・国際調査】	156

本調査の特徴

●調査の背景

本調査は、少子化、共働き化が進み、父親の子育ての担い手としての役割がよりクローズアップされる中、乳幼児を持つ父親に焦点を当て、父親の子育てや、子ども・家族とのかかわり、仕事と家庭のバランスなどの意識と実態をとらえることを目的として実施している。2005年に続き、社会環境の変容が父親の子育てに与える影響を経年で比較するために、2009年に第2回を実施した。また、2010年には、国内調査だけではみえづらい東京の父親の特徴をより明確にとらえるために、東アジアの4都市の父親を比較調査した。

本報告書では、この2005年と2009年の経年比較調査（国内調査）と、東アジア4都市比較調査（国際調査）について取りあげている。

●調査の特徴

1. 乳幼児を持つ父親の家庭生活や、育児観、ワークライフバランスの意識と実態について、大規模なサンプル数で幅広くとらえることができる。

首都圏に住む0歳から6歳就学前の乳幼児を持つ父親を対象に、育児・家事の実態、子どもや家族とのかかわり、育児観、仕事と家庭のバランスなどを広範囲にきいている。

サンプル数は、2009年の国内調査は4,574人と大規模である。

2009年調査では、地方に住む父親の回答も得ており、首都圏に住む父親との違いを参考にみることができる。

2. 2005年と2009年で、社会環境の変容が父親の生活に与えた影響や、父親の育児・家事の意識や実態の変化などを、経年で比較することができる。

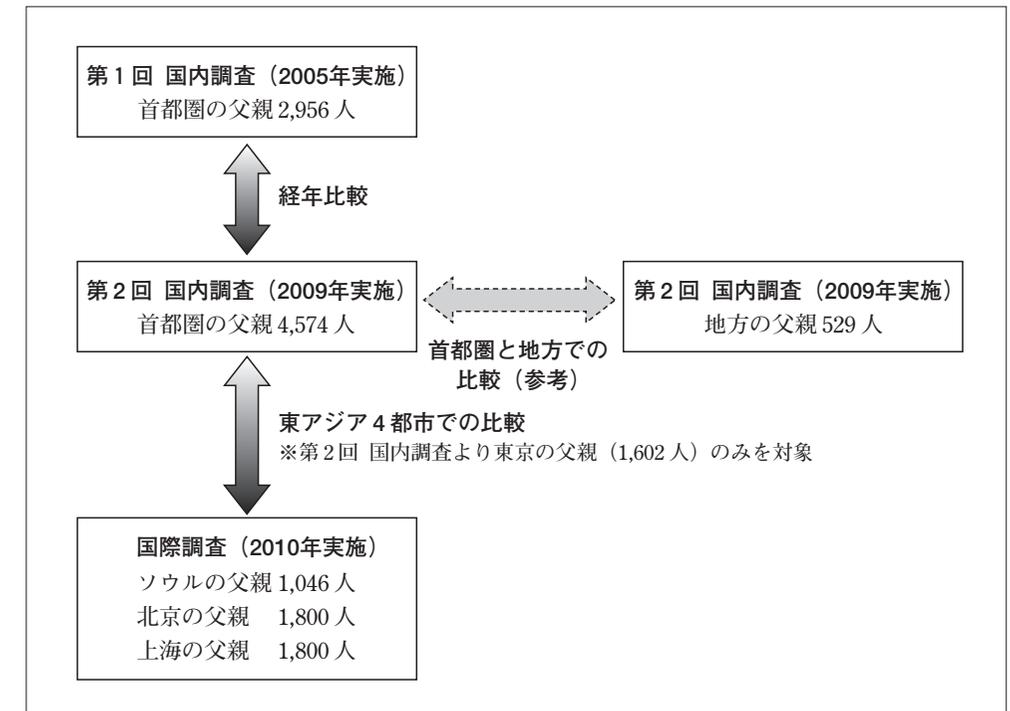
2009年調査では、育児・介護休業法の改正など、育児に関連する時代の変化に対応し、最新の父親の状況を把握できるような調査項目を追加している。

3. 東京・ソウル・北京・上海の父親について比較することで、国内調査だけではみえづらい東京の父親の特徴や、地域が異なっても共通する意識や課題についてみることができる。

本調査の枠組み（国内調査・国際調査）

国内調査は、2005年に第1回目の調査を実施し、2006年に結果を発表した。

この度、2009年に第2回目の調査を実施し、2010年に行った国際調査とあわせて報告書にまとめた。



* 第1回の結果詳細は、『第1回 乳幼児の父親についての調査報告書』（2006年3月既刊）をご覧ください。

<http://www.benesse.co.jp/jisedaiken/research/>

* 分析の対象について

本報告書の国内調査の09年の集計母数は、05年と比較するため、首都圏のサンプルのみを用いている。

* 報告書の数値について

05年調査のデータは、本報告書の制作にあたり、09年調査のデータクリーニングと同じ観点で再度クリーニングを行ったため、『第1回 乳幼児の父親についての調査報告書』（2006年3月既刊）とは、有効回答数と一部の数値が異なる。